

# ウメ ‘福太夫’ は新梢管理で熟度が揃う

## 1 はじめに

本県育成品種のウメ ‘福太夫’ は、黒星病に強く、多収性で、加工適性も高く、新たな主要品種として産地での導入が進んでいます。しかし、樹勢が強く、新梢が多く発生するため、樹冠内部が暗くなり、日照不足による花芽形成の減少や、樹体内で熟期がばらつく原因となっています。そのため、芽かきや夏季せん定で新梢の数を調整し、樹冠内部を明るく改善する必要があります。

## 2 技術内容

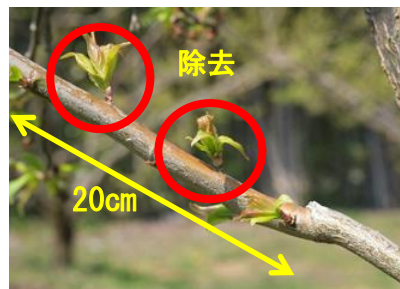
発芽・展葉期の4～5月に芽かき、新梢伸長停止期の7月に夏季せん定を行います（表1、図1）。

表1 芽かき、夏季せん定の時期および方法

	処理時期	作業内容
芽かき	<1回目> 4月上中旬	①主枝・亜主枝の先端以外の背面に発生した葉芽を除去 ②側枝基部から20cmの背面に発生した葉芽を除去
	<2回目> 5月上旬	①主枝・亜主枝の側面から発生した強い新梢を除去 ②側枝の先端部に発生した複数の新梢を先端の1本を残して除去
夏季せん定	7月下旬	主枝・亜主枝の先端以外に発生した徒長枝（1m以上伸びた新梢）を切除



主枝・亜主枝の背面(1回目①)



側枝基部の背面(1回目②)



主枝・亜主枝の側面(2回目①)

図1 芽かきで除去する新梢の例

## 3 技術の効果およびコスト

### 1) 新梢管理により樹冠内部が明るくなります

無処理だと新梢が多く発生するので、主枝の背面は見え、側枝基部には光が当たらないため、樹冠内部が暗くなります。しかし、新梢管理を行うと、樹冠内部に発生する新梢数が少なくなるので、主枝の背面がしっかり見え、側枝基部まで光が当たり、樹全体が明るく保たれます(図2)。



< 無 処 理 >



< 芽かき+夏季せん定 >

図2 夏季せん定後の樹体の状態

樹冠内の明るさの指標として相対光量子束密度の分布をみると、新梢管理を行うと、無処理よりも相対光量子密度の低い0.1~10%の測点数が減少し、10.1~20%の測点数が増え、樹冠内部が明るくなることがわかります(図3)。

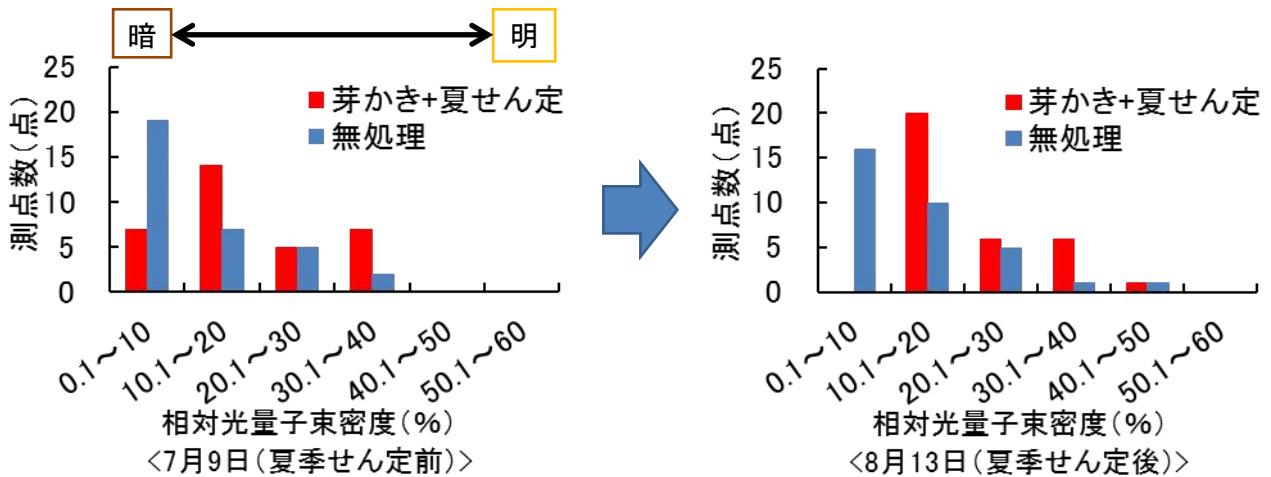


図3 相対光量子密度の測点分布数の変化

## 2) 収穫期が3日早くなり、樹体内の熟期が揃います

新梢管理すると側枝基部まで光が当たるようになるので、無処理に比べて3日程度収穫期が早くなります(図4)。

また、6月27日の落果状況を見ると、新梢管理した樹では無処理よりも主幹に近い位置の側枝からの落果率が高くなり、樹体内の熟期のばらつきが小さくなります(図5)。

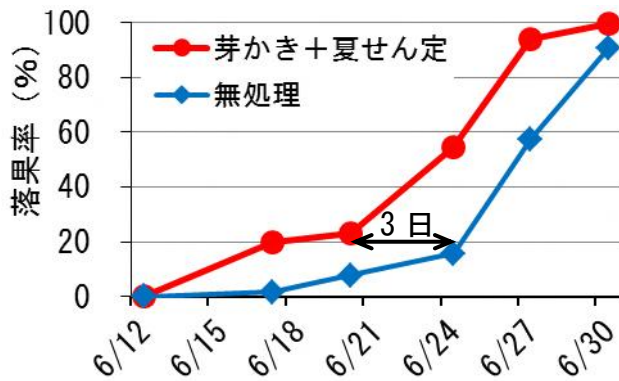


図4 完熟落果率の推移(2014年)

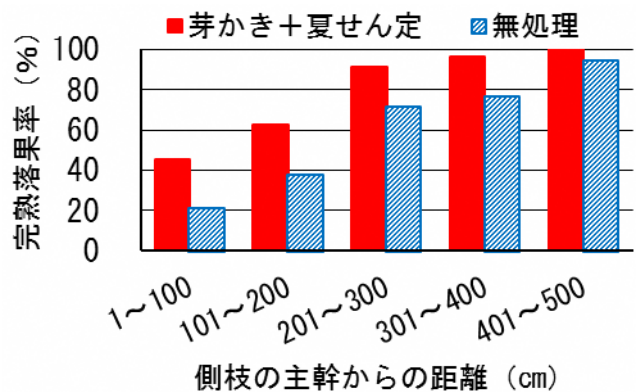


図5 側枝発生位置と完熟落果率(2014年)

### 3) 結果枝が充実して収量が増加します

樹冠内部まで光が当たるようになるので、無処理に比べて結果枝乾物重が重く充実し、花芽密度や完全花率が高まり、収量が増加します(表2)。

表2 新梢管理が結果枝乾物重、花芽密度、完全花率、結実数、収量に及ぼす影響

年次	試験区	結果枝乾物重(mg/cm)		花芽密度(個/cm)		完全花率 (%)	結実数 <sup>X</sup> (果/枝)	収量 (kg/樹)	10a換算収量 (kg/10a)
		短果枝	中果枝	短果枝 <sup>Z</sup>	中果枝 <sup>Y</sup>				
2015年	芽かき+夏せん定	18.8	27.7	1.25	1.07	95.7	95.7	158.3	3,614
	無処理	16.6	19.9	1.14	0.88	83.4	54.4	95.8	2,187
2016年	芽かき+夏せん定	21.8	28.0	1.29	1.15	65.6	-	62.3	1,423
	無処理	15.7	14.8	1.06	0.72	54.6	-	24.2	552

<sup>Z</sup> 3~10cmの結果枝 <sup>Y</sup> 10~20cmの結果枝 <sup>X</sup> 4月26日に基部径2cmの側枝を6本/樹・各3樹調査

### 4) 作業時間およびコスト

新梢管理を行うことで、芽かきや夏季せん定の作業時間は増えますが、冬季せん定で徒長枝を除去する必要がなくなるため、せん定時間が短縮し、作業が軽減します。

新たな資材を必要としないので、コストはかかりません。

### 4 留意点

- ・本研究は、若狭町田井の平成16年植栽‘福太夫’で行いました。
- ・芽かきや夏季せん定は樹勢を弱らせる作用があるので、連年処理する場合は、新梢の数を減らし過ぎないように注意してください。

[その他]

研究課題名：ウメ多収性品種‘福太夫’‘新平太夫’の特性を生かした安定生産技術の開発

研究期間：平成25~27年度

研究担当者：農試 園研C ウメ・果樹研究G 吉田貴寿、猿橋由恵